



Title	東北フィールドワークと野田村 : 大阪大学の秘められた宝
Author(s)	澤村, 信英
Citation	未来共創. 2020, 7, p. 241-242
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/76158
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

東北フィールドワークと野田村

大阪大学の秘められた宝

澤村 信英

大阪大学大学院人間科学研究科教授・プログラムコーディネーター

本プログラムにとって、7度目になる東北フィールドワーク（コミュニティ・ラーニング）である。このたびコーディネーターの任を志水宏吉教授から引き継ぐことになり、是非、全行程にわたって参加したいと思い、それが実現したことはうれしかった。野田村の中をずいぶん歩き回った。これまで参加できなかった分を取り戻したいという気持ちもあったかもしれない。

私が参加することでフィールドワークに貢献できたことはほとんどないが、地域で協力して下さっている方々の親切が身にしみた。学生が泊まる宿舎に次々と差し入れが届き、しばらく談笑して、それぞれ何事もなかったように帰られる。私自身、40年ほど前になる学生時代、洞穴調査を行う合宿の拠点として公民館などに泊っていると、このような恩を受けることが少なくなかった。こういう時代はもう終わったと思っていたが、野田村で現実起こっていることに驚き、感銘を受けた。

東北フィールドワークは、本プログラムの重要な授業であり、初日と最終日には、これが同じ人物かと思えるほど成長した履修生の姿を見ることができた。これは、地域の中で温かく学生を見守っていただき、支援下さった方々のおかげであり、これまで関わってきた先生方の尽力の賜物であるといえる。このような形で実践できるフィールドワークは、大阪大学にとっての「秘められた宝」であると思っている。

今回の東北フィールドワークは、2019年8月17日から25日の9日間にわたり、昨年度とほぼ同様に野田村で行われた。これまでの報告書を紐解くと、課題にぶつかり、考え、解決を探ろうとする、生き生きと活動する学生の姿が見て取れる。本報告書もそのように仕上がっていると確信しているが、これは野田村の人々と

学生との交流の中から紡ぎ出された成果物である。

末筆ながら、岩手県野田村役場の方々をはじめとする、私たちの活動を支えて
いただいたすべての方々に、深甚なる謝意を表する次第である。